

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか問う問題は正答率が高い。一方で、書くことに関する問題が苦手な児童が多いためであるのか、記述式問題の正答率が低く、無回答も多い。
	よくできた問題	知識及び技能の我が国の言語文化に関する事項
	努力が必要な問題	知識及び技能の情報の扱い方に関する事項、書くことに関する思考力、判断力、表現力

算数	全体的な傾向や特徴など	変化と関係に関する問題や思考、判断、表現を問う問題は全国の平均値よりも高いが、数と計算の領域の短答式、記述式の問題の無回答が多い。
	よくできた問題	変化と関係に関する事項
	努力が必要な問題	測定に関する事項

理科	全体的な傾向や特徴など	選択式や短答式の正答状況と比べて、記述式の問題が苦手な傾向にあり、無回答率も高い。
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域
	努力が必要な問題	「生命」を柱とする領域

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・理科が得意と回答した割合が高く、国語・算数が得意と回答した割合は低い。 ・1週間を通して、家庭で1時間以上学習している割合が低い。後期からタブレットを使用する課題を出し、家庭学習の充実を図っている。 ・学校の授業時間以外に1日10分以上読書をしている割合が低い。今年度より週1回、朝の読書タイムを設定して取り組んでいる。 ・本校独自の「よいところ見つけ」の取組の因果関係はわからないが、人が困っているとき進んで助けると回答した割合が高いため、今後も「よいところ見つけ」の取組を継続していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・2学期制だからこそ取り組める、夏季・冬季休業前の学力定着の取組（江川っ子タイム）で国語・算数の学習を中心に実施した。また、後期ではデジタルドリルQubenoも活用した。
- ・昨年度の反省を受け、給食準備中に学力補充の取組を行っている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・タブレットの活用による家庭学習の充実や学級や校内全体での「よいところ見つけ」、読書習慣定着のための朝の読書タイムの取組を行っている。